



第109号

平成21年12月

子育て施設課

0823-25-3144

アトピー性皮膚炎について

アトピー性皮膚炎には
年齢による対応の違い
があります。

乳児期



乳児期に問題となるのは、食物アレルギーとアトピー性皮膚炎の関係です。

小児の食物アレルギーの大多数は乳児のアトピー性皮膚炎として発症しますが、すべての乳児のアトピー性皮膚炎に食物アレルギーが関係しているわけではありません。

生後3カ月以内にかゆみの強い顔面の湿疹として発症し、アトピー性皮膚炎への対応（スキンケアとステロイド外用療法）をしても改善しない場合や繰り返す場合には、原因食物の関与を調べる必要があります。診断は、皮膚テストや血液検査 IgE RAST を参考にした上で、食物除去試験や場合によっては負荷試験（経母乳も含む）を行います。症状が重篤な場合の負荷試験は、アレルギー専門医のもとで行う必要があります。多くの食材に過敏になっている場合は、離乳開始後、摂取食物アレルギー量の増加により即時型症状（急速に出る症状）を示すようになります。このようなことを防ぐためにも、離乳開始前の診断が大切です。

小児期の食物アレルギーの大部分は、すでに述べたように乳児期のアトピー性皮膚炎として発症し、原因食物として、卵、牛乳、小麦等が多いとされていますが、過剰で不必要な食物除去や逆に食物アレルギーがあるのに普通に食物を与えてしまうことも、アレルギー症状や栄養状態を悪化させる原因となります。適切な対応により、多くが年齢とともに耐性を獲得（アレルギー症状がでなくなっていくこと）していきますので、食物アレルギーに関する対応は、医師に相談し、十分納得して進める必要があります。



幼児期



幼児期のアトピー性皮膚炎は全身に症状が出るが多くなり、かきむしることを繰り返すことによって慢性的な症状になっていきます。幼児期のアトピー性皮膚炎の特徴として、顔の湿疹病変が湿った状態から乾燥した状態になっていきます。皮膚全体として乾燥してかさかさした状態となり、腕や足、体では、毛穴に盛り上がったような丘疹が認められるようになり、鳥肌の様な肌になることもあります。肘や膝の後ろは湿疹を繰り返し、そこをかきむしることから皮膚が厚くなってきます。

外遊びが盛んになり、手足の湿疹が治りにくくなったり、保育園や幼稚園での集団生活が始まり、ウイルスや細菌による皮膚感染の機会が増えるようになります。自分で何も手入れができない年齢ですので、周囲の大人がこまめに塗り薬（外用薬）やスキンケアを行うことが大切です。

治療の基本



治療の基本は、原因・悪化の原因の検索と対策、皮膚の保護（スキンケア）、薬物療法です。原因・悪化する因子はたくさんありますので、日常生活の中で注意深く観察していくことが大切です。スキンケアは、皮膚機能の異常を改善することにより、かゆみを少なくし感染を防ぐことが目的です。一日一回はシャワーや入浴をして、保護者が石鹸を使って洗い、皮膚を清潔にします。ただし、石鹸の使用は一日一回までとします。保湿・保護用の塗り薬は、シャワーや入浴したらすぐに、身体が湿っているうちに使います。薬物療法は、医師の指示を受け、適切に使用する必要があります。漫然と十分改善しないまま使用することは避けるべきです。



汚れのたまりやすい部位

頭（特に髪の毛の生え際）
耳のうしろ
脇
首
手足の指の間
おしり

ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>